

次 期 教 育 大 綱 策 定 の 考 え 方 （ 骨 格 案 ）				
これからの公立幼稚園が目指す姿	教員が元気で生き生きと、笑顔で働くことができる学校づくり	子どもたち一人一人に応じた教育の推進	学校、家庭、地域のつながりと、子どもたちを育んでいく体制づくり	教育環境（施設等）の整備
①これからの公立幼稚園は、小規模であることや多様性を強みに変え、また、そのことを積極的に発信していきます。 保護者と一緒になって、子どもたち一人一人を丁寧に育むとともに、保護者を支え、保護者の思いをしっかり受け止めていきます。また、外国につながる子どもたちや、特別な支援が必要な子どもたちへの配慮と丁寧な支援を心がけ、多様化する保育ニーズにしっかりと応えていきます。 ②公立幼稚園は、持続可能な社会の創り手の育成のため、津市の架け橋プログラムを牽引し、地域の保育のリーダーとして私立幼稚園、公私立保育所、認定こども園との連携を図り、幼児教育を小学校教育にしっかりと繋げていきます。そこに公立幼稚園の存在意義があります。 また、このために、津市の幼稚園教育の歴史、伝統、文化を園内研修等を通じてしっかりと伝承するとともに、引き続き幼稚園教諭の人材確保に努めます。	③子どもたち一人一人のウェルビーイングが確保されることが、教員のやりがいにつながり、更に教員のウェルビーイングの向上へとつながっていきます。 誰もが幸せになるウェルビーイングの実現のため、教員が子どもたちとしっかり向き合うことができる時間の確保に努めます。 ④子どもたちの学びの環境にとって最も大切なことは「教員」です。教員が生き生きと子どもたちと向き合うことができ、教員でなければならないことに集中できる環境を整備するため、引き続き、教員支援員やスクール・サポート・スタッフ等の充実を図ります。 ⑤教員は子どもたちにとって憧れの存在です。子どもたちが先生になりたいという夢を育んでいくためにも、教員には、教育の資質の向上と情熱が必要です。このために、教員が新しい知識・技能等を学び続けていくことができるように努めます。また、このことが教員志望（若い講師等）を増やすことにもつながります。	⑥子どもたちが主人公であり、子どもたちの意見を聴き、受け止め、子どもたちの目線で考え、子どもたちが望むことを実現し、可能にしていくことが大切です。このため、子どもたちの意見を反映するための仕組みづくりについて考え、取り組んでいきます。 ⑦ウェルビーイングの視点を持った、令和の日本型学校教育の実現を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めます。 ⑧ＩＣＴの有効な活用を推進し、そのための端末の劣化・故障、さらには更新への適切な対応について取り組みます。また、端末を活用した指導・支援の充実に加え、校務の効率化等も図り、新しい時代の学びを支える学校教育環境整備の実現を進めます。 ⑨子どもたちの多様化に対応することができる教育の充実のために、インクルーシブ教育の理念を踏まえて、全ての教員に対して専門性の向上のための取組に努めます。	⑩新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、学校と地域がうまくつながっていない状況もあることから、今後も、学校と地域をつなぎ、地域活動の企画、整備等を担う地域コーディネーター等の確保と育成を図り、地域学校協働活動の一層の推進に努めます。 ⑪「教員が子どもたちと向き合う」だけでなく、「教員が保護者と向き合う」ことも必要です。保護者もそれを望んでいます。また、学校運営協議会が活性化するためには、若い世代が学校教育に関わる仕組みづくりが必要です。これらの検討を図りながら、子どもたちを育むための関係づくりの構築を進めます。 ⑫子どもたちが安心して学校に通えることができ、また、教員が子どもたちと純粋に向き合えるよう、学校、家庭、地域、福祉等の関係機関が連携し、それぞれの役割を担っていける体制づくりを目指し、取り組んでいきます。 ⑬部活動（地域移行）の方向性を示していくとともに、その情報発信についても積極的に行っていきます。また、部活動指導員等の確保について努めるとともに、地域人材等との連携の充実を図ります。	⑭学校施設の老朽化が進んでいることから、スピード感を持って対応していくとともに、今後も、子どもたちが安全・安心に学ぶための適切な環境整備に努めます。 ⑮今後も給食施設・設備の整備を進めるとともに、安定した食材調達方法の検討を進めるなど、安全・安心な学校給食が提供できる環境づくりに努めます。 ⑯<u>社会基盤を支える重要な役割となっている放課後児童クラブは、利用増に伴い、学校の空き教室の活用も進んでいる中、津市では教育委員会が直接担当して取り組めることの利点を活かし、引き続き、放課後児童クラブの充実を図り、子どもの居場所づくりの確保に努めます。</u>